

火力発電プラントにおける監視・制御システム

大野啓明*
小川 明*
長沼一裕*

要 旨

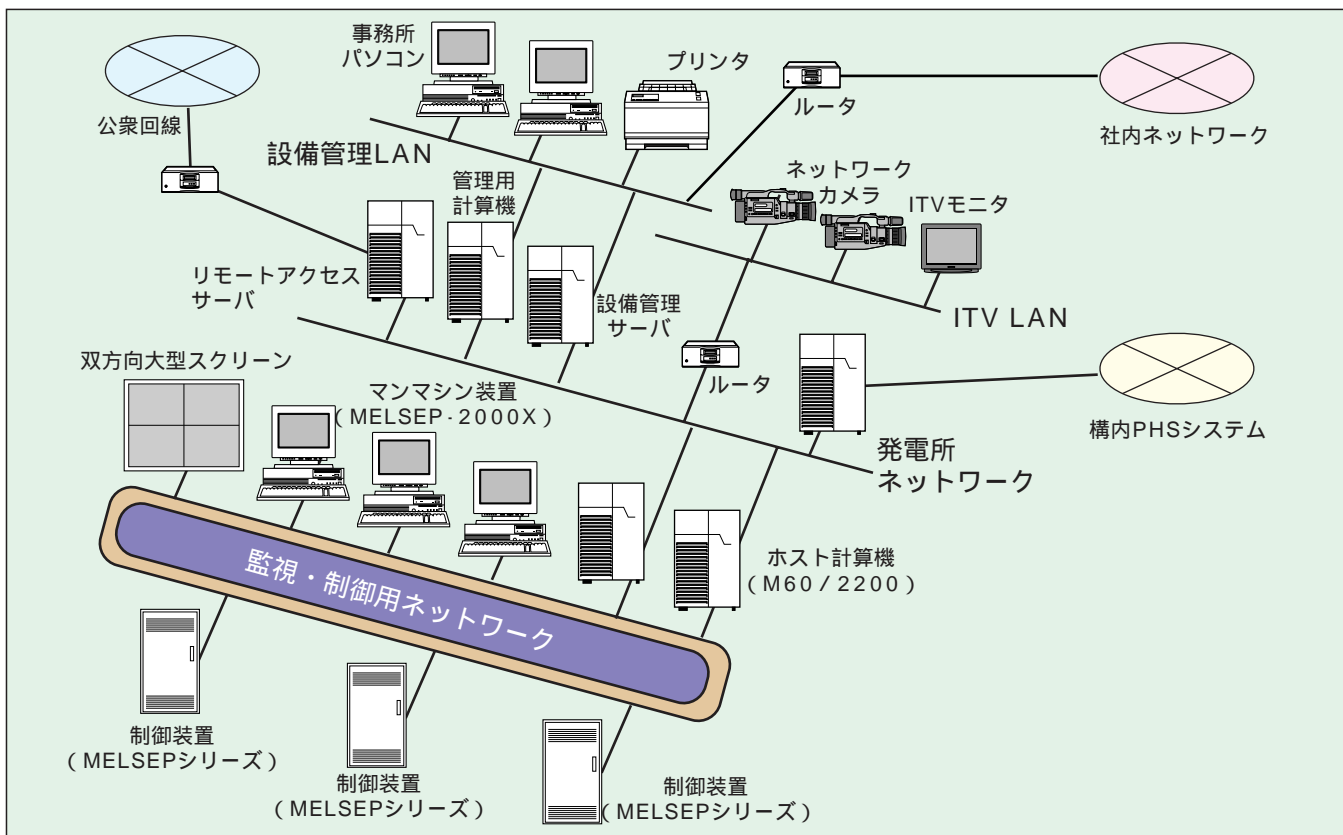
火力発電分野に要求される課題である電力の安定供給，建設・保守コストの削減，地球環境への配慮などの実現のため，火力発電プラント向けの監視・制御システムは，従来の信頼性を維持した上で，高機能化・ダウンサイジング化された装置を供給する課題を負っている。このような要求の中で，三菱電機が提供するシステムは次の特長を備えている。

(1) 最新のネットワーク技術，分散化技術，業界標準規格を積極的に取り入れ，コンパクトでフレキシブルなシステム構成，オープンインタフェース，汎用技術との高い融合性を実現している。

(2) タッチスクリーン，マウス，音声認識などの多彩な入力機器とDLP(Digital Light Processing)方式の双方向大型スクリーンなどによる高度な表示能力/ヒューマンインタフェース機能を備えている。

(3) 信頼性を重視する監視・制御系と汎用/オープン性を重視する情報通信系を融合し，本来の機能分担，セキュリティを維持しながら，データベースの共有，高度な情報交換を実現した。

(注) “DLP(Digital Light Processing)”は，米国Texas Instruments Inc.の商標である。



火力発電所向け監視・制御システム

プラントの監視・制御系と情報通信系を総合的に融合した分散型トータルシステムである。監視・制御系には従来からのリアルタイム性・信頼性を確保しながらオープン化と汎用技術の適用を行い，情報通信系と高度な融合を実現している。